

津波浸水範囲図

本図は、国土交通省都市・地域整備局発注の「東日本大震災による被災現況調査業務(千葉)」にて作成、青色が浸水した場所。



蓮沼出張所

木戸川

3.11

震災、その時を忘れない



① 蓮沼の海岸を襲う津波。防災行政無線が倒れる(蓮沼)

写真提供 千葉県警察



② 波が建物を破壊。農作物にも被害を受けた(蓮沼)



③ 木戸川決壊(木戸浜)



④ 津波で壊された塀が道路をふさぐ(小松浜)
写真提供 渡辺さん

3月11日、14時46分頃。牡鹿半島の東南東130km付近の三陸沖を震源とし、震源の深さは約10キロ、マグニチュード9.0の大地震が発生しました。

市内の震度は蓮沼出張所で震度5強を、市役所では、震度5弱を観測し、この地震により大津波が発生。成東、蓮沼の海岸地域を中心に大きな被害を被りました。

この影響で電気、水道などのライフラインが寸断。

蓮沼海岸付近の防災行政無線が津波でなぎ倒されるなど、市民への情報源が一部断たれました。テレビ、携帯からの情報も得られず、市民はおろか行政側も情報を得るために四苦八苦でした。

いち早い効果的で正確な情報発信、災害に備えての防災訓練の実施、自主防災組織の立ち上げなど震災の教訓をいかし、さまざまな角度から分析・検証が急がれます。

行政だけではなく地域と行政が手を取り合い、「災害に強いまちづくり」に取り組む姿勢が必要です。

山武市役所

— 記憶 —

津波で被害を受けた方や、消防団の方に「震災を振り返り、当時の様子やこれからどう災害と向き合っていくのか」お話を伺いました。

また、今回は市民目線で住民ディレクターがインタビューし、記事を編集しました。



5



⑤ 浸水によって出た廃棄物の山



区長会長 今関 紘さん（蓮沼）

◆震災当時はどんな状況でしたか？

震災当時、蓮沼の出張所で地域審議会の会議を開催していました。大きな規模の地震だったので、会議は流会となりました。

家に帰るとまた余震が来て、娘から携帯に電話があり「津波がくるので早く逃げて」と言われました。

その後、避難指示の放送をうけて、母と妻と3人でスポーツプラ

ザに避難しましたが、すぐに帰れるだろうと思ったので着の身着のままでした。結局避難所から帰れず、避難所で一夜を明かすことに。海岸地区の人たちが避難してきて毛布が配られ、簡単な夕食も配られました。

避難所ではラジオが1台。東北の情報を知って驚きと恐怖。寒くて一睡もできませんでした。

翌日12日、区の人たちのお見舞いに何うと、浸水した御宅の方からゴミをどうしたらよいかと聞かれたのですぐに市役所に連絡。どんな方法で、時間、何日間受け入れるかを決めて、全部の区長に決まり次第連絡がほしいと市に依頼しました。

13日に区長・役員に出てもらい、道路に流れている色々な物を片付

け、スポーツプラザのグラウンドに集めました。17日には消防や小学校、中学校からのボランティアや災害ボランティアが入ってくれて側溝掃除やごみ出しなどを行っていただきました。

◆震災を経験してどのような思われませんか？

合併する前、蓮沼には地区別の自主防災組織がありました。今は蓮沼全体の自主防災組織について再構築する予定です。

◆震災に対して地域のあるべき姿や地域で行っていることはありますか？

地域として・津波については、とにかく短時間のうちに逃げることに。今年の3月11日に避難訓練を行います。皆が車で避難すると、渋滞で動けなくなるのではないかと

と思っています。

延宝・元祿の津波について検証しておく必要がありますね。今は地域で伝えていくシステムが壊れてしまっています。伝えるということをも自分たちがもう一度やらねばならないでしょう。

それに加えて訓練を経常的に行っていくという責任があると思うのです。要支援者・子供たち・学校についてもどうやって地域で対処できるか。全部の人が共有をしなければ意味がありません。

地域では津波に対する関心が高くなり、話し合いも頻繁に起こるようになりました。個人の家庭レベルでも逃げる場所や連絡の仕方などを話していますが、要支援者に対してのコミットメントが欠けています。向こう三軒両隣で支えあう方法を考えなければいけないのです。今年訓練でできなければ来年踏み込むべきですね。

子どもたちの避難については、学校と地域が話し合いをしなければいけません。小さなグループで話し合っていることを、地域全体の一つのテーブルに乗せて地域のコンセンサスにしなければならぬと思います。

3.11 震災、その時を忘れない



社会福祉法人緑海会

若林 良光さん（木戸）

◆津波から避難したときの様子を教えてください。

3月11日のあの日、青松苑・光洋苑180名の利用者と100人の職員は、大きな揺れの続く中ですぐにラジオをつけ、津波想定避難要領に従い、成東東中学校を集合地と定め車両での避難を開始しました。

携帯ラジオから聴こえる「九十九里に大津波警報」と同時に、とにかく利用者の避難を優先しました。地震発生が、週の中でも勤務職員が比較的多い金曜の日中だったことが幸いし、自力での移動が困難な大勢の高齢者と重度の障害者を1時間足らずで5キロ離れた中学校の校庭に移動させることができたことは本当に不幸中の幸いでした。

結局、約24時間に及ぶ避難所生活之余儀なくされたが、多くの人達の支援にも助けられて、避難し

た全員が何とか施設に戻ることが出来ました。

◆今回の震災で感じたことは？

緑海会は以前より、年に4回の避難訓練を実施し、うち1回を津波想定訓練としています。昭和62年の東方沖地震の際に、実際の避難を経験しています。

今回の被災を基に、職員が津波避難対策を定期的に会議に上げました。その結果、避難所で必要な備蓄品は容易に整備できましたが、職員が手薄な夜間に津波が来たらどうするか。今もって明確な方針すら持てないままです。



木戸川が決壊し、青松苑・光洋苑の前の田にも海水が入り込んだ



木戸・小松消防団

齋藤一人さん、鈴木恒行さん

◆震災当時はどんな状況でしたか？

3月11日の午後3時30分頃、退社指示があり帰宅の途中に停電で信号機が機能しないのを目の当たりに見ました。帰宅して家族の安全を確認してから、消防機庫に駆けつけました。集まり始めた団員独自の判断で震災に対応することを、団員間で確認し合い行動を始めました。余震のあと、最初は集まりだしたメンバーで海岸に行き、地震で砂にはまった軽トラックを団員の人力で脱出させようとしたができませんでした。

ラジオで大津波警報を聞き、川が引き始めていたので危機感を感じました。消防機庫に集まったときにはまだ防災無線の情報もなく、分の判断で地区の皆さんに知らせることにしました。小松地区は消防車で「津波接近！」「緊急避難！」を地区内くまなく拡声器で知らせて回りました。木戸地区は各自の車で地区内を各戸くまなく知らせ

て回りました。

◆津波がきた時の活動と、その時思ったことは？

津波がきた当時は木戸川の橋のところにはいましたが、津波は想像以上でした。

橋の封鎖、迂回誘導を集まり始めた団員と交代しながら活動を続行しました。津波により皆で避難し、また木戸川の現場に戻りましたが、さらに大きな津波が目の前海からせまってきたので再避難。その大津波で木戸川が決壊しました。その日は、小学校の外で警戒や残された人の救出活動などを行いました。

今、思うことは、とにかく地震があり津波が来る可能性があったら早く逃がすこと、そして自らも逃げることに。



道路をふさいでいた物を撤去する消防団

◆地域のこと

災害ボランティアも今回初めて経験しましたが、常にみんなで考えて地域をまわって翌日どう活動するかを考えました。現在地域の要支援者の情報などを共有しなければという話を始めています。地域で自主防災組織を作ろうという話し合いが始まっているところですね。地域の繋がりといい点では、消防団の仕事がまさに地域の結びつきを作るのだと思います。今回得たことは、地域を走り回って地域との繋がりが深まったこと、正確な情報の大切さを痛感しました。

最後にボランティアの皆さん、本当にありがとうございました、ということをお借りして伝えていただきたいと思います。

ボランティアの皆さんが消防団の的確な指示に、安心して作業が出来たそうです。

自分も消防現役時代「消防精神イコール奉仕の心」は新入団員時代から徹底的に教え込まれます。それが脈々と受け継がれているからこそ、今回の消防団活動に現れていたと思います。



ソムリエファーム

渡辺 明さん・和代さん（小松）

◆震災当時はどんな状況でしたか？

震災時、自宅裏手の野菜ハウスで作業中でした。「防災無線」の避難指示の放送がありました。配達から戻った夫と、停電のため情報が無く躊躇していたところ、中国に赴任中の次男からの電話で「危険だから至急避難するように」とうながされ避難しました。

地震後約30分で、第一波の津波が海側から、さらに自宅北東を流れる木戸川からの両方向から到達し、第四波まで繰り返し押し寄せました。近所の自動車や小型機械の入ったコンテナまで流され、この辺一体は白海に化してしまいました。住宅から畑、水田までが海水とヘドロやゴミなどに覆われてしまいました。

緑海小学校へ避難したものの、

毛布・食料・暖房などの物資が無く、カンパンを少しいただけの程度で、また停電による寒さのため、夜は車の中で過ごそうとしていたら、危険であるからエンジンを止めるよう指示されました。でもとにかく寒かった。

◆震災を経験して思ったことは何かありますか？

震災後は、以前はあまり交流のなかった蓮沼地区の方とも同じ被災者同士絆が深まりました。また今後の津波対策としては非難場所として高い建物（2階か3階）が必要不可欠ですね。避難訓練では、信号を止めるような思い切った大規模な訓練も実行する必要があるのではないのでしょうか。



津波によって橋が破壊された 写真提供 渡辺さん

◆震災に対し地域のあるべき姿などはいかがでしょうか？

地震の強さより津波の怖さがありますから、この辺の人は絶対に逃げますよ。連携より逃げる。を肝に銘じなくちゃ。

渡辺さんの自作の紙芝居

（絵はお嬢さん）を見せていただきました。これからもずっと変わらず手作紙芝居で震災について、命の大切さについて伝え続けて欲しいと感じました。



市民は今、何を求めているのか。本当に知りたい情報はなんなのか。一緒に考え、魅力ある広報紙づくりの後押しをしていただく市民の方を募集しています。（住民ディレクターによる取材の様子）

